

令和8年度

佐賀県小・中学校学習状況調査 及び 全国学力・学習状況調査

－ 調査結果 と 指導改善のポイント －

小学校国語科

- 1 はじめに
- 2 調査結果の概要
- 3 成果が見られた設問
- 4 課題が見られた設問
 - ・ 誤答例と児童のつまずき
 - ・ 指導改善のポイント
- 5 同一児童の経年比較
- 6 おわりに

1 はじめに

佐賀県教育委員会では、児童生徒の学習状況を把握・分析し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的に、佐賀県小・中学校学習状況調査を行っています。

また、全国学力・学習状況調査の結果と一体的に分析することで、各学校における学力向上に向けた検証改善サイクルの確立につなげています。

令和8年度
学校における
学力向上の
検証改善サイクル

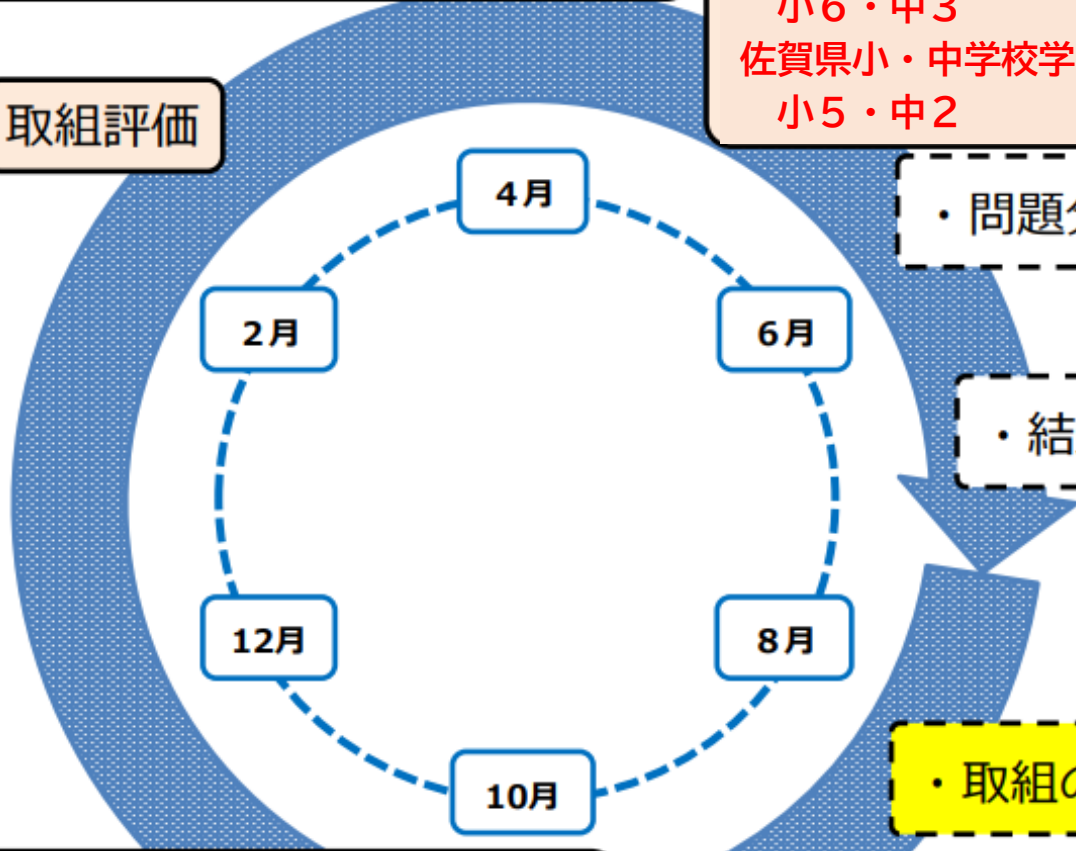
○1年間の大きな
サイクルの中で、
個々の取組に関
する小さな検証
改善を行う

検証改善サイクルを
確立・機能させるこ
とにより、児童生徒
の学力向上を図りま
しょう。

・課題解決に向けた取組の共通認識、
円滑な取組のスタート(評価シート)

【令和8年4月23日】
全国学力・学習状況調査
小6・中3
佐賀県小・中学校学習状況調査
小5・中2

取組評価



○「評価シート」の効果的な活用による改善に向けた取組の徹底

・改善に向けた取組

2 調査結果の概要

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《教科全体》

小5国語

年度	県平均正答率	目標値
R 8	62.8 %	65.2 %
R 7	61.1 %	66.0 %

目標値との差
(県平均正答率－目標値)

-2.4

-4.9

※目標値・・・学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童生徒の割合

R8の県平均正答率は、目標値を2.4ポイント下回った。
しかし、R7と比べると、目標値との差が小さくなった。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《観点別》

小5国語

知識・技能

年度	県平均正答率	目標値
R 8	73.1 %	72.7 %
R 7	69.4 %	70.0 %

目標値との差
(県平均正答率－目標値)

+0.4

-0.6

R8の県平均正答率は、目標値を0.4ポイント上回った。
また、R7と比べると、改善が見られた。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《事項別》

小5国語

事項	年度	県平均正答率	目標値	目標値との差 (県平均正答率－目標値)
(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	R8	73.3 %	72.8 %	+0.5
	R7	71.3 %	70.6 %	+0.7
(2) 情報の扱い方に 関する事項	R8	64.4 %	65.0 %	-0.6
	R7	63.9 %	70.0 %	-6.1
(3) 我が国の言語文 化に関する事項	R8	79.6 %	80.0 %	-0.4
	R7	57.4 %	65.0 %	-7.6

R8の県平均正答率は、「言葉の特徴や使い方に
関する事項」で目標値を上回った。
また、R7と比べると、「情報の扱い方に
関する事項」「我が国の言語文化に
関する事項」で改善が見られた。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《観点別》

小5国語

思考・判断・表現

年度	県平均正答率	目標値
R8	55.3 %	59.7 %
R7	55.1 %	63.0 %

目標値との差
(県平均正答率－目標値)

－4.4

－7.9

R8の県平均正答率は、目標値を4.4ポイント下回った。
しかし、R7と比べると、目標値との差が小さくなった。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《領域別》

小5国語

領域	年度	県平均正答率	目標値
A 話すこと・ 聞くこと	R 8	59.1 %	61.0 %
	R 7	71.6 %	71.7 %
B 書くこと	R 8	48.8 %	60.0 %
	R 7	42.2 %	55.8 %
C 読むこと	R 8	56.4 %	58.3 %
	R 7	59.8 %	65.8 %

目標値との差
(県平均正答率－目標値)

-1.9

-0.1

-11.2

-13.6

-1.9

-6.0

R8の県平均正答率は、全ての領域で目標値を下回った。
しかし、R7と比べると、「書くこと」「読むこと」で改善が見られた。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《教科全体》

小6国語

年度	県 平均正答率	全国 平均正答率
R8	56 %	60.9 %
R7	64 %	66.8 %

全国平均正答率との差
(県平均正答率－全国平均正答率)

-4.9

-2.8

※全国調査の教科全体の県平均正答率は、文部科学省から整数値で提供されています。

R8の県平均正答率は、全国平均正答率を4.9ポイント下回った。
また、R7と比べると、全国平均正答率との差が大きくなった。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《観点別》

知識・技能

小6国語

年度	県 平均正答率	全国 平均正答率
R 8	56.4 %	62.0%
R 7	73.2 %	74.5 %

全国平均正答率との差
(県平均正答率－全国平均正答率)

－5.6

－1.3

R8の県平均正答率は、全国平均正答率を5.6ポイント下回った。
また、R7と比べると、全国平均正答率との差が大きくなった。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《事項別》

小6国語

事項	年度	県 平均正答率	全国 平均正答率
(1) 言葉の特徴や使い 方に関する事項	R8	61.4 %	66.8 %
	R7	77.0 %	76.9 %
(2) 情報の扱い方に 関する事項	R8	46.6 %	52.3 %
	R7	59.5 %	63.1 %
(3) 我が国の言語文 化に関する事項	R8	該当する設問なし	
	R7	79.4 %	81.2 %

全国平均正答率との差
(県平均正答率－全国平均正答率)

－5.4

＋0.1

－5.7

－3.6

—

－1.8

R8の県平均正答率は、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」で全国平均正答率を下回った。
また、R7と比べると、全国平均正答率との差が大きくなった。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《観点別》

思考・判断・表現

小6国語

年度	県 平均正答率	全国 平均正答率
R8	55.2 %	60.1 %
R7	60.3 %	63.8 %

全国平均正答率との差
(県平均正答率－全国平均正答率)

－4.9

－3.5

R8の県平均正答率は、全国平均正答率を4.9ポイント下回った。
また、R7と比べると、全国平均正答率との差が大きくなった。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《領域別》
小6国語

領域	年度	県 平均正答率	全国 平均正答率
A 話すこと・ 聞くこと	R 8	60.2 %	65.8 %
	R 7	64.0 %	66.3 %
B 書くこと	R 8	40.3 %	45.7 %
	R 7	65.8 %	69.5 %
C 読むこと	R 8	62.5 %	65.9 %
	R 7	53.4 %	57.5 %

全国平均正答率
との差
(県平均正答率
－全国平均正答率)

－5.6

－2.3

－5.4

－3.7

－3.4

－4.1

R8の県平均正答率は、全ての領域で目標値を下回った。
しかし、R7と比べると、「読むこと」で改善が見られた。

第5学年では、令和7年度の県調査結果と比べると、以下の点において、改善が見られた。

- 教科全体の県平均正答率
- 観点別の県平均正答率 「知識・技能」「思考・判断・表現」
- 事項別の県平均正答率 「情報の扱い方に関する事項」
「我が国の言語文化に関する事項」
- 領域別の県平均正答率 「書くこと」「読むこと」

第6学年では、令和7年度の全国調査結果と比べると、以下の点において、改善が見られた。

- 領域別の県平均正答率 「読むこと」

3 成果が見られた設問

※ 目標値を上回った設問や全国平均正答率と同程度だった設問を取り上げています。

- ◇司会の役割を果たしながら話し合い、考えをまとめている。（小5）
- ◇叙述を基に文章の内容を捉えている。（小5）
- ◇文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。（小6）

4 課題が見られた設問

※ 目標値や全国平均正答率との差が大きかった設問や、これまで県の課題とされ、今年度も指導改善が必要と考えられる設問を取り上げています。

- ◆自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして文章を書いている。（小5）
- ◆自分の考えを明確にして文章を書いている。（小5）
- ◆資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる。（小6）
- ◆引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。（小6）

指導改善のポイント

自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして文章を書くことができるようにするために、

- 複数の情報を比較し、共通点や相違点、特徴を整理する活動を取り入れる。
- 情報から分かる事実と、そこから考えたことを関係付けながら、書き表し方を工夫する活動を取り入れる。
- 「なぜなら」「その理由は」「例えば」などの言葉を用いるなどして、自分の考えと根拠を結び付けて書くことができるように指導する。
- 書く相手や目的を意識した表現になっているかを、チェックリストなどを用いて相互評価しながら確かめる活動を取り入れる。

指導改善のポイント

資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるようにするために、

- 発表の様子を収録した動画を使うなどして、写真や映像、音声などの資料がどのような効果を生み出しているのかについて話し合う活動を取り入れる。
- 「どの資料を使えば、相手に分かりやすく伝わるのか」を考えながら、目的や相手に応じて資料を選択したり組み合わせたりする活動を取り入れる。
- 自分の思いや考えが十分に伝わるように、資料の示し方や話し方を工夫できているか検討する場面を設定する。

指導改善のポイント

引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるようにするために、

- 引用した文章や図表等の出典については必ず明記するよう指導する。また、引用する部分をかぎ（「 」）でくくるよう指導する。
- 何のために引用するのかという目的を明確にした上で、複数の資料の中から本や文章を選び、どの部分を用いるか整理して書く活動を取り入れる。
- 引用した情報が、自分の考えを支える根拠として適切であるかを吟味する場面を設定する。

5 同一児童の経年比較

〈 県調査結果と全国調査結果との比較 〉

	小学校			中学校		
学年	第1学年～ 第4学年	第5学年	第6学年	第1学年	第2学年	第3学年
県調査 (4月実施)	第4学年までの 学習における 「強み」「弱み」 の把握	国語 算数		第1学年までの 学習における 「強み」「弱み」 の把握	国語 数学 英語	
全国調査 (4月実施)		課題が解決したか、 確認と振り返り	国語 算数 (理科)		課題が解決したか、 確認と振り返り	国語 数学 (理科・英語)

() 内教科…3年に1回実施

各学校において、経年比較における分析も行ってみましょう。

5 同一児童の経年比較

27

〈 R 8 全国調査結果と R 7 県調査結果との比較 〉

領域	R 8 全国調査 対全国比※1	R 7 県調査 対全国比※2	R 8 - R 7
A 話すこと・聞くこと	0.91	0.96	-0.05
B 書くこと	0.88	0.77	+0.11
C 読むこと	0.95	0.90	+0.05

※1 全国調査対全国比 … 県平均正答率÷全国平均正答率

※2 県調査対全国比 … 県平均正答率÷調査に参加している児童生徒（各教科約10万人）の平均正答率

参考として、対全国比で比べると、「書くこと」と「読むこと」で改善が見られた。

6 おわりに

まずは、以下の点に留意して授業づくりを行いましょう。

- ◆単元を通して、身に付けるべき資質・能力を確認する。
- ◆身に付けるべき資質・能力を見据えて、言語活動を設定する。

(例) C(1)工 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること



音読劇

佐賀県
教育センター

サイト内検索

検索ワードを入力してください

各種研修

受講のための情報

受講者へのお願い

オンデマンド受講者専用ページ

駐車場の利用について

申込等各種手続

授業に役立つコンテンツ

授業に役立つ実践研究

学習評価の進め方

SAGAせ～る指導案

学習状況調査

授業に役立つ実践研究

プロジェクト研究

校種	教科・領域	研究主題：「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
小学校	各教科	【小学校国語科】 授業改善に役立つコンテンツ new
		【小学校算数科】 授業改善に役立つコンテンツ new
中学校	各教科	【中学校国語科】 授業改善に役立つコンテンツ new
		【中学校数学科】 授業改善に役立つコンテンツ new
		【中学校英語科】 授業改善に役立つコンテンツ new
個別実践研究（教育センター所員がチームを組んで取り組んだ研究）		
小学校	各教科・領域等	指導と評価の一体化を図るためのコンテンツの開発 new
中学校		指導と評価の一体化を図るためのコンテンツの開発 new
		理科、音楽科、美術科、技術・家庭科（家庭分野）、道徳科

・小学校国語科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、児童の「主体的・対話的で深い学び」の実現を図ることが大切です。その際、「言葉による見方・考え」を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方を理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図るようにしましょう。

「主体的な学び」の視点
児童自身が目的や必要性を意識して取り組める学習となるよう、学習の見通しを立てたり振り返ったりする学習場面を計画的に設けているか。

「対話的な学び」の視点
児童の学ぶ意欲が高まるよう、実社会や実生活との関わりを重視した学習課題として、児童に身近な話題や現代の社会問題を取り上げたり自己の在り方生き方に関わる話題を設定したりしているか。

令和6年度 佐賀県教育センター プロジェクト研究(小学校国語科教育研究委員会)

小学校
国語科

小学校国語科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の「主体的・対話的で深い学び」の実現を図ることが大切です。その際、「言葉による見方・考え」を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方を理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図るようにしましょう。

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」p.153を基に作成

小学校国語科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点

「主体的な学び」の視点

児童自身が目的や必要性を意識して取り組める学習となるよう、学習の見通しを立てたり振り返ったりする学習場面を計画的に設けているか。

児童の学ぶ意欲が高まるよう、実社会や実生活との関わりを重視した学習課題として、児童に身近な話題や現代の社会問題を取り上げたり自己の在り方生き方に関わる話題を設定したりしているか。

「対話的な学び」の視点

児童同士 児童と教職員 児童と地域の人が、互いの知見や考えを伝え合ったり議論したり

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に役立つコンテンツ、指導と評価の一体化を図るためのコンテンツなど、今すぐ使えるコンテンツが満載です。

